

2022 年度前半期東北地区産科婦人科学会・医会連絡会

東北連合参加婦人科学会役員会および日本産婦人科医会 東北ブロック協議会 議事録

日時：2022 年 5 月 15 日（日） 午前 8:00～8:50

会場：仙台国際センター 会議棟 3 階 白櫃

開催挨拶 （永井先生）

I.開会の辞 （谷川原先生）

学会長である濱崎先生は体調不良のため欠席。

II.東北連合産科婦人科学会役員会 （司会：八重樫先生）

秋田大学は Web 参加

報告事項

1. 庶務報告 （永井先生）

資料 1：東北連合産科婦人科学会の開催県と担当大学を記載。

資料 2：担当県の順番に変更なし。

資料 3：学会役員一覧も、変更なし。

資料 4：会員数と会費納入状況。

資料 5：物故会員。

2. 第 69 回北日本産科婦人科学会総会・学術講演会の準備報告 （馬場先生）

プログラムは準備中。演題登録開始。ハイブリッド開催を検討中。

3. 第 153 回東北連合産科婦人科学会の準備報告 （高橋先生）

2023 年 6 月 17-18 日 秋田駅前のメトロポリタンホテルで現地開催予定。

4. 第 70 回北日本産科婦人科学会総会・学術講演会の準備報告 （横山先生）

2023 年 9 月 23-24 日にアートホテル弘前シティで開催予定。

現地開催または完全 web を検討中。

5. 日本産科婦人科理事会報告（徳永先生）

1) 専門医制度に関して

専門医機構がプログラム選択にマッチング導入を検討中。（各領域学会に事前相談なし）

海外での状況を確認中だが、非現実的であり、学会としては反対表明を検討中。

マイページの運営は 4 月 1 日から実装予定であったが、遅れている。

2) 専門医委員会からの報告 (永瀬先生 渡部 洋先生)

外陰癌の進行期分類の改定

再発卵巣癌の調査研究

トラネキサム酸の髄腔内誤投与による神経毒性について

3) 社会保険委員会関連 (渡部 洋先生)

診療報酬改定に関して

- ・先進医療申請の際は不妊治療の保険適用に係る Q&A を参考に
- ・ハイリスク加算分娩は常勤医 3 名以上で適応
- ・デュファストンが供給不足
- ・令和 6 年診療報酬改定に向けて要望を募集中

4) 地方委員連絡会 6 月 1 日に開催予定

5) 災害時には PEACE へ情報入力を (永瀬先生)

6) その他

(横山先生)

- ・リプロ領域で SRHR を専攻医の必修知識として取り入れる動きがあり
- ・2022 版へ SRHR の記載
- ・研修の要件にも SRHR 入ってくる可能性がある

(寺田先生)

- ・プロゲ製剤とヒスロンも出荷制限すると企業から連絡。
- ・スプレキュアも供給が厳しくなっている。

協議事項

1. 2021 年度東北連合産科婦人科学会収入支出決算並びに監査報告 (永井先生)

今年度は前年度と比べ、収入と支出ともマイナス。

COVID-19 の影響でオンライン会議運営費が多かった。

当年度差額は 143 万円。

監査報告は適切(会場から異議なし)。 (渡部 洋先生)

2. 2022 年度東北連合産科婦人科学会収入支出予算 (永井先生)

研修医と高齢者の会費を免除、収入、支出とも 793 万円予定。(会場から異議なし)

3. 2022 年度東北連合産科婦人科学会・医会連絡会について (永井先生)

後半の医局連絡会は 2023 年 2 月 19 日予定。

4. 第 155 回東北連合産科婦人科学会の担当県について (松田先生)
2024 年 5 月 18 日、19 日岩手県で開催予定。

5. 今年度の専門医試験について (徳永先生)
昨年専門医試験の面接係には、プログラムと関係ない先生方に依頼。
今年は例年通り東京と大阪で開催予定。

6. その他

東北医科薬科大学の現状について (渡部 洋先生)
今季 1 期生 93 名が卒業し、90 人が医師国家試験に合格。
卒業生の東北残留率が低い。
卒業生交流支援センター等、卒業生の残留率増加を目指す。

閉会

(文責：田上和磨、永井智之、齋藤昌利)